

「教育臨床総合研究15 2016研究」

「開放制」教員養成における学生支援のあり方に関する一考察

— 平成26・27年度における「水曜倶楽部」の取組みを中心に —

A study on the Student Support Program under the ‘Open System’ of Teacher Training
— Focusing on the Activities of the ‘Suiyo-club’ in 2014-2015 —

山根伸子*

Nobuko YAMANE

粟野道夫*

Michio AWANO

三島修治**

Shuji MISHIMA

塩津英樹*

Hideki SHIOZU

要 旨

平成26年7月に教職課程を履修する他学部の学生（開放制課程）をサポートする目的で「教員を目指す学生を応援するための時間・スペースである「水曜倶楽部」を教師教育研究センター内に開設した。本稿は「水曜倶楽部」に参加した学生が初めて迎えた教員採用試験（平成27年度実施）及び4年生の意識調査の結果を踏まえて、「水曜倶楽部」の成果と課題について明らかにする。

〔キーワード〕 開放制 学生支援 教員養成

I 「水曜倶楽部」開設の背景

(1) 「水曜倶楽部」の開設前の状況

島根大学教育学部附属教師教育研究センターでは、教育学部以外の学部の教職科目の管理運営や教育実習及び介護等体験に関わる必要な事務手続き、教員免許取得に関する相談・支援活動等を行っている。

我が国の教員養成は、一般大学と教員養成系大学とがそれぞれの特色を発揮しつつ行っている。このようないわゆる「開放制の原則」については、「幅広い分野から人材を求めることにより、教員組織を多様なものとし、活性化することが期待できるという意味で、教員の資質能力の向上に積極的な意義を有するものである」（「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」平成18年7月11日 中央教育審議会）とされてきた。

また、教員は「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」平成27年12月21日 中央教育審議会）

*島根大学教育学部附属教師教育研究センター

**島根大学大学院教育学研究科教育実践開発専攻

にあるように、「自立的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力」、「情報を適切に収集し選択し、活用する能力」、「知識を有機的に結びつけ構造化する力」等、様々な資質能力が必要とされ、急激に変化する現代社会の中において複雑かつ多様な課題に対応することが求められている。こうした教員養成を担う大学は、学部を問わず、大きな責任を有すると言わなければならない。

こうした中、本学の教育学部以外の他学部（法文学部、総合理工学部、生物資源科学部）の教職希望者（以下、他学部生と略記）は、例年1年次は約400名にも及ぶが、教育実習を実施する4年次には140名程度まで大幅に減少する状況にある。

また、授業の遅刻や欠席、レポート提出の遅れ等が多く、モチベーションの低さがうかがわれる学生と意識の高い学生が混在する中、教職を目指す仲間同士の支え合いや励まし合いの機会も少なく、教職に対するモチベーションが上がらずに、結果的に教員採用試験対策の取組みが遅れてしまうケースも少なくない。学生に対する早期の心理的なケアや環境づくり、教職へのキャリア発達支援、教員採用や教員採用試験等に関する情報提供、相談活動等、教職を目指す学生に対するサポートの必要性は高い状況であった。

（2）他大学の取組み

他大学では他学部生のサポートはどのように行われているのだろうか。中国地方の国立大学の取組みの一端を挙げると、岡山大学では、全学組織である教師教育開発センターが教職相談室を設置し、教職を経験した相談員とコーディネーターが配置され、教職に関する情報の提供や相談を実施、教師力養成講座を開講している。鳥取大学では、教員養成センターの教職相談室において、教員経験のある教員が相談を受け付けている。広島大学では、教育学部が就職情報資料室において教員採用試験対策情報を提供するとともに、就職相談客員教授（教職担当）が相談にあたっている。山口大学では教育学部が「ちゃぶ台プログラム」として、ちゃぶ台を囲むように、議論、実践、解決しながら教育課題に適切に対応できる教員を養成する取組みを行っており、ちゃぶ台ルームでは教育学部の学生ばかりでなく他学部生も一緒に集まり活動している。また、「教職よろず相談室」で教職に関する相談にも応じている。

Ⅱ 「水曜倶楽部」の開設と目的

以上のような背景や課題意識に基づき、当センターでは、平成26年7月に教員を目指す学生を応援するための時間・スペース「水曜倶楽部」をセンター内に開設した。

本学においては、教育学部で行われている島根大学未来教師塾や就職支援室、教員採用試験対策セミナー、1000時間体験学修等の取組みに他学部生も参加しているが、「水曜倶楽部」の主な目的は他学部生の教職に関する全般的なサポートであり、教育学部と比較して教職に取り組む時間が少ない他学部生が、仲間と関わりながら教職に向き合う時間を作るための様々な活動を行うことである。

具体的には

- 教職を志す仲間同士で刺激しあうことでモチベーションを高めるとともに、不安感を解消する

○実務家教員をはじめ教職担当の教員の指導を受けることにより、教員の仕事の実情や教員になるために必要とされる様々な資質・能力を知り、教職への自覚と熱意を高める

○教員採用試験や教職関係の体験活動の情報を提供する

といったことが挙げられる。

「水曜倶楽部」に関わる教員の中には、教職に関する事務手続きや授業の場で他学部生と日頃から接している教員もいるため、学生の特性や心情に配慮したきめ細かな対応ができ、教職に対する不安を持つ学生が気軽に相談できる「居場所」としての役割を担うことを期待している。

Ⅲ 「水曜倶楽部」の活動内容

(1) 主な活動内容

平成26年7月に開設以降、原則水曜日午後に学生ワークステーションにおいて主な活動を実施した。(表1) 開設当時は参加者が思うように集まらなかったが、パンフレットを作成し、学内に掲示することなどが功を奏し教員を志す学生が徐々に集まるようになった。現在「水曜倶楽部」では、自由参加の形でモチベーションアップや仲間作りのきっかけとなる企画や教員採用試験対策等を随時実施している。

表1 平成26年度及び27年度における主な活動状況と実施回数 (H27. 2 末現在)

件名	概要	H26	H27	合計
「今年の公立学校の教員採用試験に合格した4年生に話を聞いてみよう」	合格者体験談	2	3	5
都道府県シリーズ「〇〇県出身者集合！同じ教員採用試験を受ける仲間とお話しよう」	同じ出身県で仲間作りと情報交換	0	5	5
「先輩で教員をされている先輩とお話してみよう」他	卒業生（教員・教採合格者）と懇談	1	1	2
教職相談（個人相談）	教職に関する悩みや教員採用試験対策等の相談	9	6	15
「水曜倶楽部」「自分を見つめる」オリジナルワークシートを活用した自己分析	友人とワークシートを活用し自己分析	5	6	11
模擬授業	下級生も交えて実施	0	6	6
その他企画『「青年海外協力隊でアフリカで理科を教えることになりました!」という4年生の話を聞いてみよう!」等	積極的に活動している学生を紹介する企画やその他の取組み	5	5	10
合計（回）		22	32	54

<懇談会の実施>

教員採用試験に合格した4年生の話を聞く懇談会を平成26年、27年で計5回実施した。また、他学部生は教育学部に比べて県外出身者が多いため、平成27年度から同じ出身県の学生を集めた懇談会を実施し、仲間意識を醸成し、同じ教員採用試験を受ける仲間作りのきっかけや情報の提供、モチベーションアップの機会になる懇談会を計5回実施した。教育学部の学生や医学部の学生も積極的に勧誘し、同じ教職を目指す仲間として交流する機会を設けた。



懇談会の状況

また、教員採用試験に合格した教員1年目の卒業生や、働きながら教員採用試験に合格した卒業生の協力により、学校現場の状況や働きながら教員採用試験に合格した体験談を聞く懇談会を各年度計2回実施した。他学部では現役で合格した学生は少ないため、他学部出身の先輩ならではの貴重な体験を学生が聞く機会となった。

<教職相談（個人相談）>

専門科目との両立や個々の悩みを持つ学生に対し、教職や教員採用試験に対する不安な気持ちを受け止めるとともに、教育学部の教員採用試験対策（島根大学未来教師塾等）の紹介や勉強方法のアドバイス、モチベーションアップを目的とした教職相談を2年間で15回実施した。

<「水曜倶楽部」「自分を見つめる」ワークシートを活用した自己分析>

「水曜倶楽部」オリジナルの「自分を見つめる」ワークシート（資料1）を活用して、友人同士や担当講師、時には実務家教員等を交えて行う自己分析を計11回実施した。自己分析は教員採用試験の際の自己アピールシートや面接対策のための準備段階になるものであり、「自分を見つめる」ことを楽しみながらできるように、質問内容等に創意工夫をこらした。

質問内容については、就職支援室作成の「教員採用試験面接対策ノート」や「授業づくりネットワーク No.8—教師のリフレクション(省察)入門(授業づくりネットワーク No.8)」ネットワーク編集委員会『教師教育のリアリステック・アプローチの第一歩～たまねぎモデル・ALACTモデルの実践例～』における「教師としての自分図」等を参考に、教職関係に重点をおいた項目を検討した。

質問内容は、教員関係と自己全般のことの大きく2つに分け、教員関係では「今まで出会った素敵な先生はどんな人?」、「こんな先生になりたい(理想)」、自己全般のことで「自分の長所は?」「大学生活で経験した中で『これ!』と思う体験は?」のように、身近で親しみやすい項目を設けた。

本ワークシートは、自分の考えを簡潔に整理し他人に伝えること、同じ教職を目指す仲間の意見を聞くことによって自分を客観視できるようになることを目的とした。また、毎回「本日の心の天気」という設問を設け、学生本人だけでなく教員も学生の心理状況が把握できるものも設けた。

<模擬授業の実施>

学生の要望があったため、模擬授業を6回実施した。4年生と大学院2年生が模擬授業を行い、その他の学生や教員も生徒役として参加した。終了後は参加した実務家教員が中心となって複数名の教員がアドバイスを行った。

表2 模擬授業実施内容(平成27年度)

	実施日	教科	内容等	授業者	学生	教員
1	4月30日	国語	阿部公房「棒」	4年1名(法文)	6名	4名
2	5月13日	国語	詩 谷川俊太郎「明日」等	4年2名(法文)	7名	4名
3	5月21日	国語	「をかしの文学」枕草子	4年1名(法文)	4名	3名
4	6月3日	国語	説話 大江山の歌 十訓抄	4年1名(法文)	6名	4名
5	8月18日	国語	和語・漢語・外来語等	4年2名(法文)	7名	2名
6	10月23日	数学	角と平行線	2年1名(総理院)	7名	2名

＜積極的に活動している学生を紹介する企画等＞

学生が広い視野を持つとともに、積極的に各種活動に自分から参加していく姿勢を作るため、「ボランティア活動等の体験について聞いてみよう」、「『青年海外協力隊でアフリカで理科を教えることになりました!』という4年生の話聞いてみよう」など、積極的に活動している学生を紹介し、「元気な人から元気をもろう」企画を数回実施した。また、「教員経験(島根県・中学校)のある先生とお話ししてみよう!」など、実務家教員と話す機会を設けた。

＜自己アピールシートや小論文の添削指導＞

学生から自己アピールシートや小論文の添削指導の要望があったため、ひとりの学生につき教師教育研究センターの3, 4名の教員が教員採用試験直前まで複数回指導を行った。

(2) その他のサポート

＜教員採用試験や教職に関する情報提供＞

島根大学未来教師塾や教員採用対策セミナー等の紹介、就職支援室や各学部教員から情報を入手し、掲示や「水曜倶楽部」参加者を対象とした学生へのメール連絡を行った。また、他学部生は学校体験活動を経験できる機会が少ないため、高校生や中学生と交流する機会を紹介し、教育実習を前に学校現場で貴重な体験活動を行う機会を増やすことに努めた。

＜「水曜倶楽部」通信の発行＞

「水曜倶楽部」の活動等を紹介する「水曜倶楽部通信」を4回発行し、学内掲示板に掲示、学生や関係教員に配付した。内容は特別企画の実施結果をはじめ、「ミニ掲示板」等で教職関係の事務連絡を、編集後記等で、教員採用試験をめぐるエピソード等を掲載した。

＜「水曜倶楽部」の開催場所である学生ワークステーションの整備＞

教員採用試験対策の参考書や教職全般、介護等体験等の図書を購入し、合格した学生からの寄贈された参考書を整備し自由に閲覧できるように配置した。また試験の情報を都道府県別に集めたファイルを作成し、受験者からデータを収集している。



水曜倶楽部通信(No.4 H28.1発行)

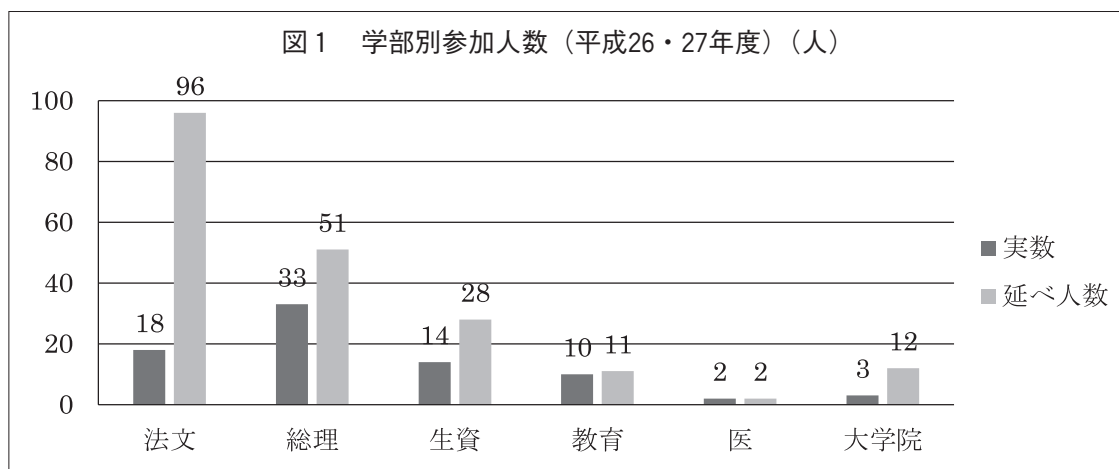
また、室内のテーブルの上に学生が「教職に対する思い」を書き込んで共有できるノートを設置したり、写真入りの活動状況や卒業生の写真入りメッセージを掲示して、常に来室した学生の目に触れるようにすることで新たな参加者を募るとともに、仲間意識の醸成に努めた。

<卒業生とのネットワークづくり>

卒業生との情報交換のため、教員採用試験合格者には、機会があれば「水曜倶楽部」への参加（新人教員の奮闘話を後輩に語ってもらう）や後輩への応援メッセージ等の提供を、常勤講師・非常勤講師として採用される学生には、今後の教員採用試験の合格状況の連絡等について随時協力を依頼している。

（3）学生の参加状況

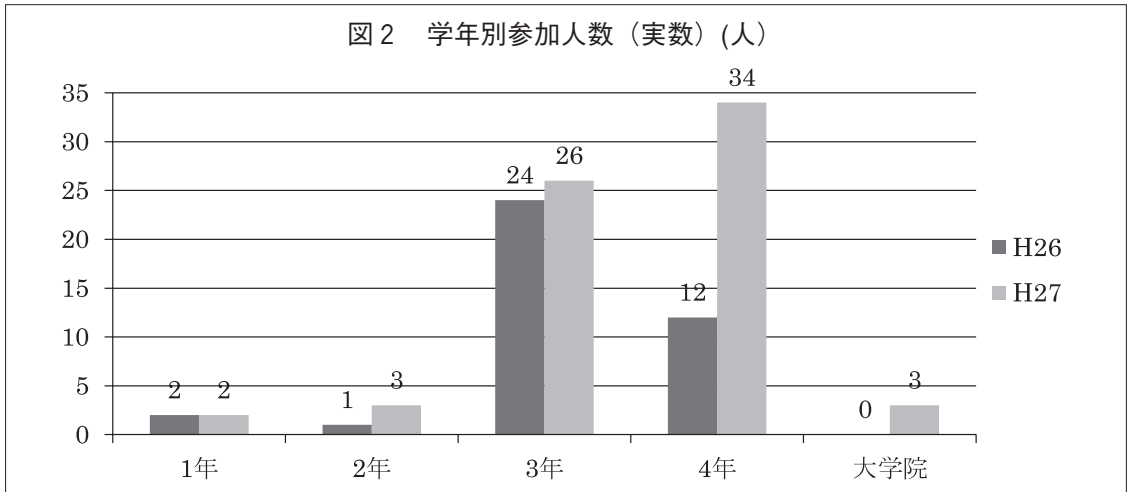
参加者は平成28年2月末現在で実数では80名、延べでは200名となった。学部別では、実数では総合理工学部が一番多く、続いて法文学部、生物資源科学部と続いているが、延べ人数では法文学部が突出して多い。（図1）



教育学部の学生の参加が少ない理由は、「水曜倶楽部」は他学部向けのサポートを主な目的としており、直接依頼した学生のみ参加したためであると考えられる。医学部についても教職課程を履修している学生が少ないことと、松江キャンパスでないため参加者は少ない。また、「水曜倶楽部」参加者として当初は、教職課程を履修する学部学生を想定しており、大学院生向けの広報・周知は行っていなかったため、大学院生の参加者は少ない状況である。

次に、学年別でみると、教員採用試験を控えた3年生と4年生が多い（図2）。

1年生と2年生では熱心な学生が数名見られた。また平成27年度からは大学院生も数名参加した。当該学生は昨年の「水曜倶楽部」開設時には4年生であったが、教員採用試験を目前に控えた今年からの参加となったものである。



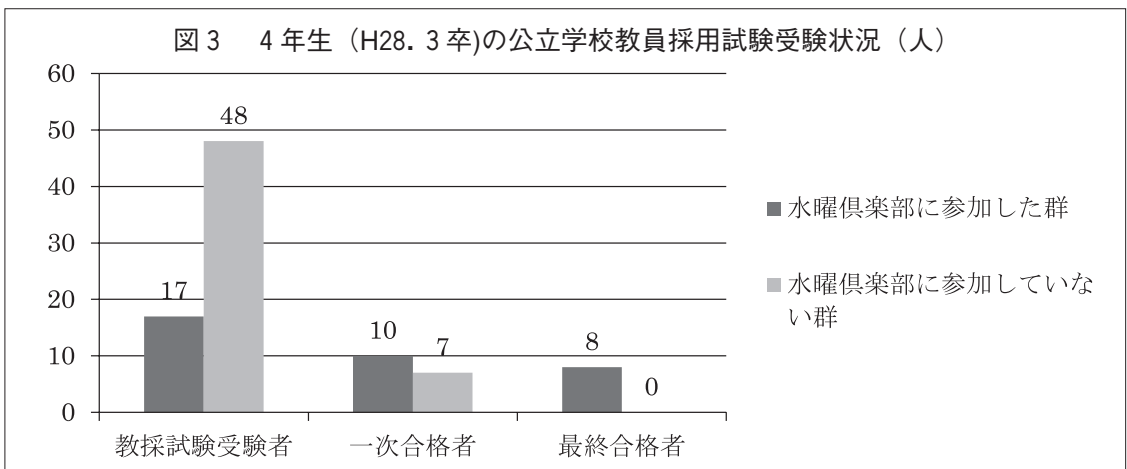
IV 活動状況の分析と考察

(1) 公立学校教員採用試験合格状況について

平成27年11月15日に開講された「教育実習に係る事後指導」履修者119名（主に4年生）を対象にした「教職に関する意識調査」（記名式）の中で教員採用試験受験状況や「水曜倶楽部」への参加状況等について調査した。

「水曜倶楽部」を開設した平成26年7月当時3年生だった学生が、「水曜倶楽部」に参加して仲間と関わりながら教員採用試験対策等を行ってきた。平成27年度はそれらの学生が4年生になり、開設当初から「水曜倶楽部」で活動した学生が迎えた初めての教員採用試験となった。

4年生119名のうち教員採用試験を受験した学生は約半分の65名であり、そのうち「水曜倶楽部」に参加していた学生は26%にあたる17名であった。（図3）



「水曜倶楽部」に参加した受験者17名については、一次合格者が10名、最終合格者が8名という結果になった。参加していない受験者48名のうち、一次合格者が7名、最終合格者が0名という結果になった。一見して分かるように、「水曜倶楽部」に参加した学生は非常に高い割合で一次合格及び最終合格を果たしている。教員採用試験の合格について、明らかに「水曜倶楽部」に参加したことの効果が認められる。

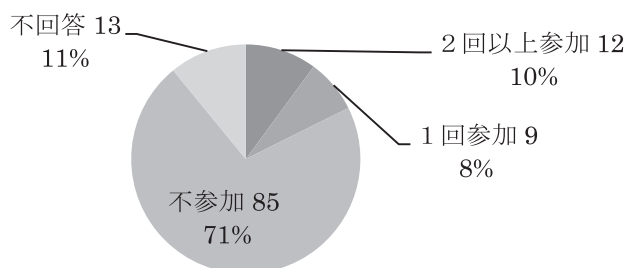
教員採用試験では、筆記試験のほかに面接や集団討論、模擬授業などの人物重視の試験が行われている。教職への熱意や資質能力はもちろん、自分の思いや考えを言葉で伝える力、相手の気持ちを理解する力、集団の中における自己表現力や協調性、いわゆるコミュニケーション力が必要となってくる。

「水曜倶楽部」では、面接練習や自己分析シート等を通じて、自己分析や自己理解につながる取組みを多く実践してきている。また、同じ教職を目指す仲間や教員との交流により教職への自覚や意欲が高められたこと、教員採用試験対策セミナーや体験活動等に自ら参加する積極性が養われたこと、毎回違うメンバーが参加する懇談会でコミュニケーション能力を高められたことなどが考えられ、こうしたことが「水曜倶楽部」参加者の高い合格率に影響したものと思われる。他学部生で教員を目指す学生にとっては、個々の学生で努力するほか、なかなか教員採用試験に必要とされる上記のような様々な能力を養う機会が与えられることは無かったため、「水曜倶楽部」の開設は大きな意義があったと考えられる。

(2) 4年生の「水曜倶楽部」の参加状況について

4年生全体の「水曜倶楽部」の参加状況については、「2回以上参加」と「1回参加」を合わせた4年生の約2割が参加、約7割が不参加という状況であった。(図4)

図4 4年生(H28.3卒)の「水曜倶楽部」参加状況(人)

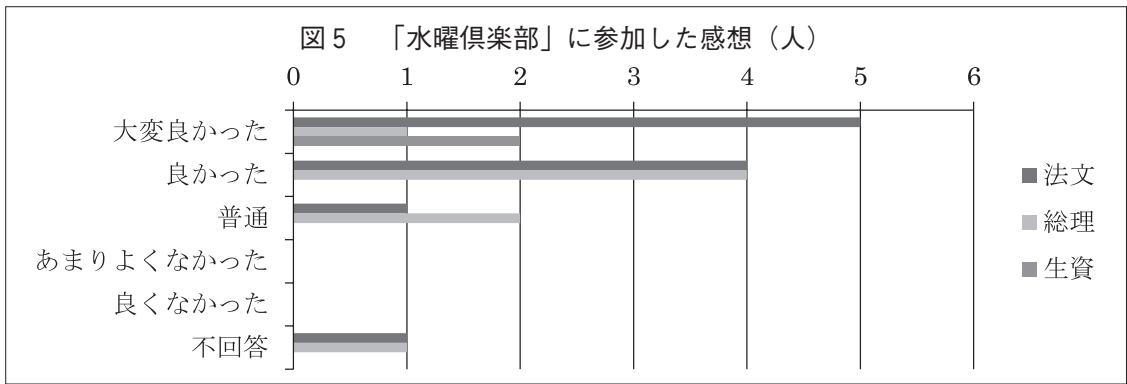


参加している学生は、3年生の頃から法文学部の学生が多く、リーダーシップのある学生数名が仲間を誘い各企画へ参加し、4年次には積極的に模擬授業の実施や面接指導等の申し込みや教員採用試験の対策について相談に来る姿が見られた。積極的な学生が参加することによって、次第にこれらの活動への参加者が多くなり、お互いに高めあう姿が見られた。

(3) 「水曜倶楽部」に参加した感想

次に、「水曜倶楽部」に「参加した」と回答した21名のうち、「『水曜倶楽部』に参加して良かったと思いますか」において、「大変良かった」が8名、「良かった」が8名、「普通」が3名、「あまり良くなかった」「良くなかった」の感想は0名であった。(図5)

記名式であるので、否定的な選択肢を回答しにくい点はあるとしても、全員が肯定的な評価であった。学部別では、参加人数が多い法文学部が「大変良かった」が多く、総合理工学部は「良かった」が多かった。生物資源科学部は2名共に「大変良かった」との回答であった。



理由について記述式で回答を求めるところ、情報交換ができた (5名)、モチベーションアップができた (4名)、教職仲間や先生と出会えた (3名) など、仲間と情報交換することで意識が高まったという感想が多かった。

では、具体的にはどのような企画等が良かったという感想につながったのであろうか。

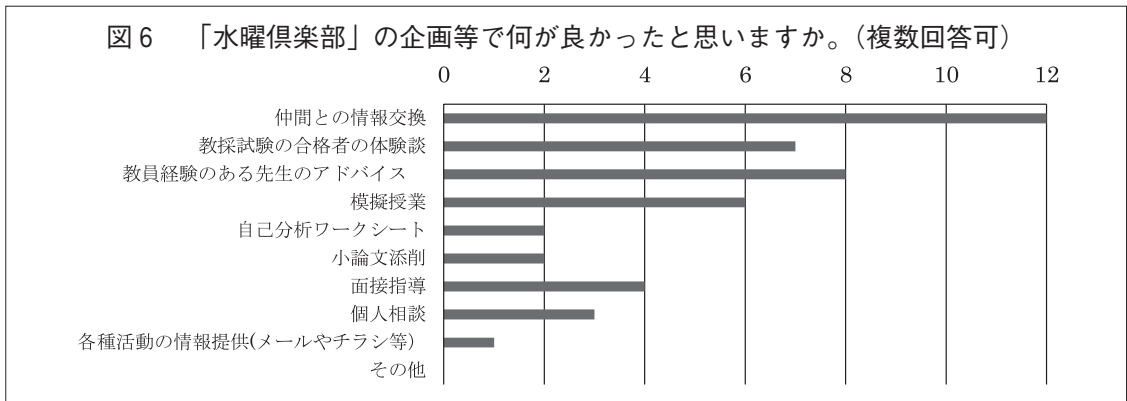


図6で示されているように、「仲間との情報交換」が12件と一番多く、「教員経験のある先生のアドバイス」8件、「合格者の体験談」7件と続いている。多くの学生が教員採用試験対策のために「水曜倶楽部」を活用しているが、「仲間との情報交換」が一番に良かったと感じていることが明らかになった。

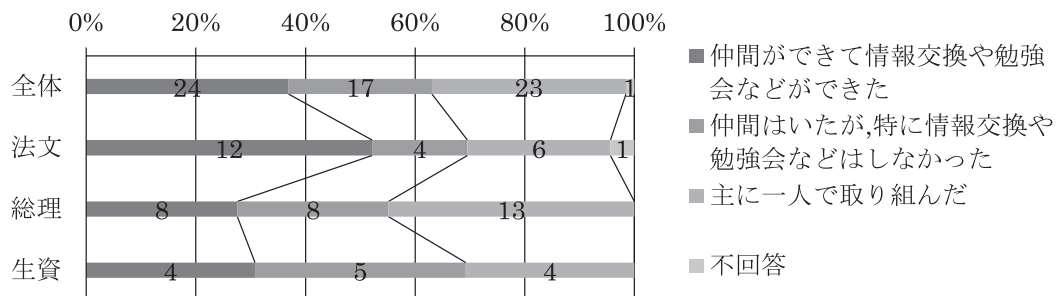
上位3項目については、いずれも仲間や先輩、教員を通じた情報交換に関連する選択肢であり、学生は教員採用試験の情報を求めている中で、それに付随した人との関わりに満足感を覚えていたとも考えられる。

「自己分析ワークシート」は学生から好評であったが、2件という結果であった。初期の頃の活動であるため印象が薄れたと思われる。仲間や教員と共に自分を見つめ、話し合うことがその後の活動の一步となり意識の向上につながるため、活用する効果は大きい。

(4) 仲間との情報交換

4年生全体では、「仲間との情報交換」はどのぐらいの割合で行われていたのだろうか。「仲間ができて情報交換や勉強会などができた」は4割弱、「仲間はいたが特に情報交換や勉強会などはしなかった」が3割弱、「主に一人で取り組んだ」が4割弱であった。(図7)

図7 仲間と教員採用試験等に向けた情報交換や勉強会をしましたか。(人)



この4割弱という割合が、高いかどうかは議論の余地はあるが、これまでの「水曜倶楽部」の活動実績から、学生同士の交流が相乗効果を生むことが明らかとなっており、より積極的にこのような仲間と関わる活動を行うよう指導していくことが必要である。

学部別で比較すると、法文学部が「仲間と一緒に勉強できた」割合が5割と多く、総合理工学部、生物資源科学部は2～3割となっている。「水曜倶楽部」への参加数が多い法文学部において割合が高くなっている。

以上のように「仲間ができて情報交換や勉強会などができた」学生は4割弱ではあったが、実際のところ、6割に当たる仲間と勉強しなかった学生は、どのように思っていたのだろうか。仲間と勉強しなかった学生に「仲間と情報交換や勉強をしたかったと思いますか。」と尋ねたところ、「したかった」が半数以上の約6割にものぼった。学部別でも差は見られず「仲間と勉強したい」という潜在的な希望は多いことは明らかであった。(図8)

図8 仲間との情報交換や勉強をしたかったと思いますか。(人)



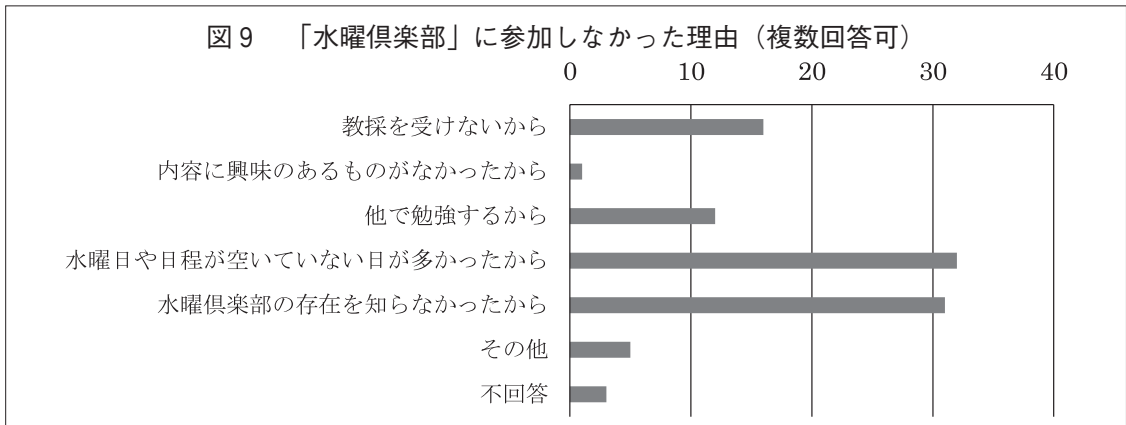
他学部生から「教職課程の授業で顔見知りではできるが、それ以上の交流はない」という声を聞くことがある。「水曜倶楽部」に参加した他学部生からは「教室のような少しかたい場所ではなく、1つのテーブルを囲んでリラックスしながら活動できたことが「水曜倶楽部」の魅力の1つだと思う」と感想があり、「水曜倶楽部」を学生同士で気楽に参加できる場として様々な機会を通じて周知していきたいと考える。

(5) 参加しなかった理由について

参加しなかった理由については「教員採用試験を受けないから」を別にすると、「日程が空

いていなかったから」と「『水曜倶楽部』を知らなかったから」がそれぞれ30件程度あった。(図9)

「日程が空いていなかったから」については、主な企画は授業のない水曜日午後を実施しているが、授業がないためにかえって他のゼミナールやアルバイトが既にスケジュールに組み込まれていたことなどが考えられる。また、「『水曜倶楽部』の存在を知らなかったから」との回答が多いことから、予想より「水曜倶楽部」が浸透していないことが分かった。「水曜倶楽部」が認知されるためにはさらなる努力が必要である。



V 成果と課題

(1) 「水曜倶楽部」の成果

教員採用試験の結果については、前年と比較すると、教育学部を除いた他学部生の4年生の合格人数は微増であり大きな変化ではなかった。しかし、合格した学生のほとんどが「水曜倶楽部」の参加者であったことが、特徴として挙げられる。

平成27年度の4年生を見てみると、もともと意識が高く独力でも教員採用試験に合格できると思われる資質能力や積極性を十分に持った学生数名が「水曜倶楽部」に参加し、その学生に影響された教職志望の学生が徐々に増え共に行動して行く様子を見ることができた。さらに、一人ひとりの学生の悩みに対し、仲間や教員が細かくアドバイスをすることができたため、教員採用試験等に対する不安感がある程度払拭されたと思われる。

「水曜倶楽部」参加学生は、こうした学生同士の「ヨコ」の繋がりのほか、実務家教員を中心とする当センター教員による模擬授業の指導、面接指導、論文指導等の取組みを通じて、教員との「タテ」の繋がりを持つことができた。筆記試験対策は独学でも十分力を付けられるが、模擬授業などは教員経験者等による第三者的な視点での指導を受けなければ、独力では上達しにくいものである。しかし、学生は「水曜倶楽部」でこうした教員からの指導を直接受けることで、面接時の効果的な対策をとることができ、同時に知らず知らずのうちに教員のような世代が異なる人間とのコミュニケーションを抵抗感なくとることができるようになっていった。「タテ」の繋がりには、このような有形無形の効果を生んだものと思われる。

以上のように、教職志望の学生が集まり、不安を解消しお互いを高めていく「居場所」づくりを目的として開設した「水曜倶楽部」は、そうした学生が教員採用試験に合格し、教員とし

てその使命を果たしていくための能力を養成していく場所としての一定の機能を果たすことができたものと考えられる。

(2) 今後の課題

ア 懇談会等主な企画の日程調整と広報

意識調査でも挙げられていたように、日程が合わない学生のため、水曜午後以外の開催や参加希望者に合わせた日程の調整の検討が必要である。水曜日以外でも学生が参加可能な日程の設定は既にも実施しているところではあるが、他にも多様な時間設定の検討、例えば授業時間外や土日の実施なども検討の余地がある。また「水曜倶楽部」の存在を知らない学生のため、掲示板やホームページ等の広報媒体や広報内容のさらなる工夫も必要である。

イ 大学院生へのサポート

学部生は教職科目を履修しているため教職員は何らかの接点はあるが、大学院となると接点は少ない。平成27年度に教員採用試験を受験しなかった学生の中で、意識調査実施時点で大学院進学予定者は全体で26名、そのうち今後も教員採用試験を受験希望の学生は14名、受験するかわからないという学生も含めて「卒業後もサポートを受けてみたい」という学生は18名であり、大学院生のサポートへの要望は大きい。

ウ 教職に関する意欲の少ない学生への対応

教員免許取得のみが目標で教員志望でない学生や教職に意欲の無い学生は、「水曜倶楽部」にほとんど参加していない。そのような学生に対し、キャリア教育的観点から将来の職業選択の一つとして教職の魅力伝えるとともに職業意識を涵養するため、日常の事務手続きの場や個別に相談を受ける機会を通じて「水曜倶楽部」への参加を促したい。意欲的な学生と交流する機会を作ることで、気づきの場を提供できると考える。

エ 教育学部で行われている各種教員採用試験対策における連携

「水曜倶楽部」では、教育学部で行われている島根大学未来教師塾や就職支援室、教員採用試験セミナー等の既存の各種教員採用試験対策、就職支援室作成の「教員採用試験受験テキストブック」を、他学部生に積極的に紹介・活用し、好評を得ているが、「水曜倶楽部」の側からも、教育学部の学生に還元できるものを検討している。

その一つが、中学校・高等学校や中国地方以外の教員採用試験情報の提供である。現在、他学部生が受験した中学校・高等学校の教員採用試験情報について、各都道府県別にまとめたファイルを作成中である。教育学部の学生は中国地方の小学校、中学校を受験することが多いため、他の校種や自治体を受験する教育学部の数少ない学生の参考資料として活用できる。さらに教育学部の学生が、「水曜倶楽部」に参加することで「同じ教職を目指しているが、違う視野を持った仲間」との交流も可能である。教育学部の学生と他学部生にとってお互いに刺激になると言えよう。

VI 結び

「水曜倶楽部」を開設して約2年の間に、学生が乾いた砂漠でオアシスを見つけたように「水曜倶楽部」に参加し、教職を志す仲間たちとともにそれぞれの専門の内容を学びながら自

分達がやりたいことを貪欲なまでに追求し、教職に関する懇談会や体験等に積極的に挑戦していく姿を垣間見ることができた。この姿はまさに、教職を志す学生の理想的な姿ではないだろうか。教職カリキュラムの改善等の各種施策が求められる中、「水曜倶楽部」の活動を一層充実させ、自立的に学ぶ姿勢を持ち、仲間とともに高めあいながら教師への道を切り拓いていく学生を、より多く学校現場へ送り出せるようにしていきたい。

参考文献及び参照ホームページ

- 1) 岡山大学教師教育開発センター「教職課程履修ハンドブック」
<<https://cted.okayama-u.ac.jp/curriculum/handbook/>> (参照日：2016年3月24日)。
- 2) 島根大学教育学部就職支援室「教員採用試験面接対策ノート」2015年。
- 3) 福島裕敏「教師教育のリアリステック・アプローチの第一歩～たまねぎモデル・ALACTモデルの実践例～」ネットワーク編集委員会『授業づくりネットワーク No.8—教師のリフレクション(省察)入門(授業づくりネットワーク No.8)』学事出版, 2012年, 48-51頁。
- 4) 国立大学法人岡山大学
「教職相談室のご紹介」<<https://cted.okayama-u.ac.jp/counseling/>> (参照日：2016年3月24日)。
- 5) 国立大学法人鳥取大学「教員養成センター教職相談室」
<<http://www.tottori-u.ac.jp/3666.htm>> (参照日：2016年3月24日)。
- 6) 国立大学法人広島大学「学生への就職支援 納得のいく就職活動のために」(就職情報資料室)<<http://www.hiroshima-u.ac.jp/ed/syusyoku/>> (参照日：2016年3月24日)。
- 7) 国立大学法人山口大学「ちゃぶ台ルームを活用した取り組み」
<<http://nagomi.e-chab.edu.yamaguchi-u.ac.jp:8080/chabudai/projects/kensyuu>>
(参照日：2016年3月24日)。
- 8) 中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)」(平成18年7月11日)
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337003.htm>
(参照日：2016年3月24日)。
- 9) 中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)」(平成27年12月21日)
<http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf> (参照日：2016年3月24日)。

水曜倶楽部「自分を見つめる」ワークシート (No.1)

学生番号() 氏名() 男・女 平成 年 月 日

出身地	
自分の行動ペースは(他人と比べると)	・早い ・普通 ・ゆっくり ・よくわからない
他人と話すことは	・好き ・普通 ・苦手 ・よくわからない
希望の校種・教科(中学校・国語等)	

※文字にすることで、自分の経験を思い出して、整理してみましょう。→小論文や面接のネタ作りにもなります。
 ※水曜倶楽部などで、自分の回答を言葉にしてみたり、他の人の回答を聞いてみましょう。→自分の意見に反映できたり、新しい発見が生まれることがあります(教採に合格した先輩談:教採前に友達と二人で交換日記のようにお互いにチェックあいました。同じ受験者の視点で見れる点で良かったです)
 ※メモ・メッセージ欄は使い方は自由です。話し合いの中で気づいたことなどを書いてください。
 時にはセンターの先生方からメッセージをいただくこともあるかも!(希望者は申し出てください)

	質問	私の回答	メモ・メッセージ他
自分全般のこと	1 自分の長所は?		
	2 自分の短所は? ※なるべくポジティブに記載してみましょう!		
	3 大学生生活で経験した中で「これ!」と思う体験は?		
	4 今努力していること		
	5 最近読んで感銘を受けた本		
教員関係	1 今まで出会った素敵な先生はどんな人?		
	2 こんな先生になりたい(理想)		
	3 こんな先生になりたくない(理想の反対)		
	4 先生を目指す自分の一番のアピールポイント		
	5 今関心がある教育問題・教採関係		